

写真家

関口 照生
せきぐち てるお



「400年前、海を渡ったサムライの旅路」

2013年6月から、マドリッドの王立劇場に始まり、仙台、石巻、昨年は東京、名古屋8月にはマドリッドの王立美術アカデミー、本年3月にはスペインのパリャドリッドで「支倉の道」というタイトルの写真集を開催している。もちろん写真展に先がけて、写真集も土祥させていただいた。この支倉常長をテーマにしたのは支倉常長が伊達正宗の命を受け仙台藩建造の「サン・ファン・パウテスタス」でメキシコとの交易条約を結び、メキシコ、スペイン、ローマへと旅立ってから400年の歳月が経ち、日本、スペイン交流400年の記念行事の一環の企画であった。

支倉常長については遠藤周作の小説「侍」で少々の知識があった。支倉は「侍」として、主の名代としての使命と、改宗してカトリック信者として、主への堅信の間で生きた高潔な人物として心に残っていた。ただ支倉本人の記録はなく資料も断片的であった。とにかく彼等の辿った「スペインの道」を歩いてみることにした。

バルセロナからアラゴン州へ。教会から修道院、街の人達にも尋ねたが「支倉使節団」の痕跡は僅かなものであった。その後スペインへの上陸地セビリヤの南、コリア・デルリオを取材。ここには侍の子孫が胸を張るパホン（日本）姓の人達に歓待された。「メキシコ」の道は

と しょ かん しょう 通信

館 通 信

第36号
季刊(春)
2015

トピックス

- 巻頭言 写真家 関口 照生……………1ページ
- 古い本、新しい話 尾崎 真理子……………1ページ
- 図書館と私 目白図書館奉仕員(司書) 喜多 まゆみ……………2ページ
- 生涯の一冊 豊島区教育委員 渡邊 靖彦……………2ページ
- この本カフエ……………2ページ
- 雑司が谷の文化・文学ごほり話……………3ページ
- 図書館イベント情報・図書館カレンダー……………4ページ

発行 ● 豊島区立中央図書館
東京都豊島区東池袋四一五一一
ライズアリーナビル四階・五階 〒170-8442
電話 ● 03-3983-7861
FAX ● 03-3983-9904
ホームページ <http://www.library.toshima.tokyo.jp/>
発行日 ● 平成27年4月



新航路[34]

豊島区新世紀!

図書館主催で2月に開催した「地域研究ゼミナール」は、「学校一教育としまの輝き」として全5回のシリーズで開催し、その1回は豊島区立第十中学校(通称「十中」)のスクールバンドの歩みにあてた。音楽教師故酒井正幸氏の指導した十中のスクールバンドは、都大会や全国大会で数々の優秀な成績をおさめ、その活動はその後の全国のスクールバンドのサウンドや演奏方法の源流となったということもできる。

その十中吹奏楽部3期生(昭和36年)の演奏活動のなかに「豊島区役所新庁舎落成式記念演奏」があった。53年前、現庁舎のスタートをこれから部活動が本格化していく十中吹奏楽部がお祝いしていた。第十中学校は統廃合によりすでに

く、区役所の現庁舎も今役目を終えようとしている。

さて、現庁舎に替わる新庁舎の開設が5月に迫っている。区役所新庁舎は、いろんな面で画期的である。まず、49階建ての高層ビルに住宅との合築で整備されるのは全国でも例がない。また、この庁舎は年345日開庁して、区民の利便性を各段にアップさせる。さらに、区役所を単なる区の事務所にとどめないで、全体をミュージアムにして、来庁舎に楽しんでもらおうという試みもある。自然体験学習の場の「豊島の森」も併設する。無機質な、機械的な区民と役所との関わりではなく、区役所の用事にプラスアルファが加わることになる。「新しい庁舎には新しい行政を」と、区長の陣頭指揮のもとに豊島区が大きく変わろうとしている。豊島区の新世紀が今はじまる!

学者三代

尾崎 真理子

新しく出た本を主に紹介する仕事にかかわっているが、考えてみれば、新しい本の多くは古い話からできている。古い話が現代と確かに繋がった時、傑作が生まれる……。今春、第八八回読売文学賞の評論・伝記部門を受賞した富士川義之著「ある文人学者の肖像 評伝・富士川英郎」を読んで、このように感じている。

広島にルーツを持つ富士川家は、学者三代の家である。義之氏の祖父・遊は「日本医学史」を著し、森鷗外に史伝「伊沢蘭軒」の文献を提供した医史学者。父・英郎はリルケを専門とするドイツ文学者から一転、江戸漢詩の再評価への道を開いた東大教授だった。義之氏も、同じ東大教授に就いてイギリス文学を講じ、ナボコフやW・ヘイターらの翻訳で知られる。六五歳の時に父を亡くした義之氏は、なぜ、英郎は和文脈の研究に後半生を投じたのか。父の謎に十年がかりで迫っていく。

学者の執念とは凄いな。義之氏はドイツ語も漢文も読み込んで、父の代表作「江戸後期の詩人たち」(こちらは第一九回読売賞を受賞)や「菅茶山」の神髄を読み解いていく。さらに父が祖父・遊を描いた評伝の中に、鶴外の史伝に学んだ「述べて作らず」の淡淡とした流儀をしみじみ味わいながらも、しかし自身は、英国の評伝作家ストレイチー流の、わかりやすく、かつ陰影を凝らした描写で父の実像に挑む。支えとしたのは「著述家の生命は、著作の中においてのみ生き続ける」。義之氏が専門とするナボコフの言葉である。そうして、関心の枝を九三歳に至るまで存分に伸ばした父・英郎の悠々たる肖像を、時折、三代目の憂鬱をにじませながら、自在に描ききっている。

時空を超えて呼応する極上の知性。作中に登場する、時の流れに揺るがぬ古典の数々。まさに古い本、新しい話の競演だ。つけ加えれば、「ある文人学者の肖像」の版元は、学者二代が馴染んだ本郷にある「新書館」といっ。

(読売新聞編集委員)

日本写真家協会(J・P・S)会員
東京生まれ、明治大学卒業。倉敷芸術科学大学客員教授。
広告や雑誌・写真集の撮影を中心に活動。写真集に「地球の笑顔」シリーズ「支倉の道」ほか多数。「ニコソフォトコンテスト」インターナショナル(経済産業省)今年のロケット大賞 ほか様々な分野の審査員、政府の諮問委員なども務める。



生涯の一冊

35

書名 『人間提督山本五十六』
著者 戸川幸夫

発行所 潮書房光人社
発行年 1976年
(新装版2012年1月)



わたなべ 渡邊 靖彦

豊島区立小学校PTA連合会会長
豊島区教育委員、税理士
区立小学校PTAとして教育活動に携わることとなり、子供たちの健全な成長のために活動しています。

私は特に読書好きだったという訳でもなく、小学校高学年位から図書館で『ラールブル昆虫記』や歴史上の人物の伝記などを読むていどでした。中学に入り剣道部に所属したことから吉川英一『宮本武蔵』に触れる機会があり、その後は歴史小説を読むようになりまし
た。あくまで小説ではありますが、登場人物は歴史上の有名
人であり、歴史的な背景からその時代における主人公の生
き様に興味がわいてきました。なかでも『人間提督山本五十六』
には大きな影響を受けました。軍人が主人公というと軍
国主義など非人道的なイメージを受け

『人間提督 山本五十六』

ますが、そういう点では武将に関するものも攻撃的、覇
権的な面は避けることができます。しかし、この本では
軍人ではあるものの、戦うことは最終的にやむを得ない
手段であって、できる限り平和を維持するために努力す
ることの大切さが伝わってきました。そして、山本五十六
個人の人柄が、自分の信念に対しては一步も譲らない
という厳しい面を持ちながらも、ユーモアを持ち、喜怒哀
楽も庶民と同じように感じ、気取つたりしない普通の
人であったことは、非常に共感できる人間性豊かな人
物であったことが心に響きました。また、「小さな卒の

なかで競い合つて一喜一憂することは自分をまかせこ
とであり、精神の修養と自分を磨き上げることが第一で
ある」といふところは、自分の生き方を模索していた当
時高校生であった私には「サッ」と心に刺さる思いで
した。偉人たちは、とても人間くさい面を持ちながらも
当時の社会に大きく影響します。
私は、これといつて大きく社会に影響力が無くても
機会があれば、社会に貢献できる自己を磨く生き方が
出来れば、価値ある人生となるものと感じました。現在
に至つても、そのような生き方が出来ているか問い続け
ておりますが、日々の研鑽を怠らせず、少しでも役に立つ
人生となることを願っています。

図書館と私 23

心に響く本をもっと

目白図書館奉仕員(司書)
喜多 まゆみ

我が家には、年の離れた姉がいたこともあり、私がまだ字も読めない内から、いつでも手の届く所に子どもの本があった。母も本好きな人で、「岩波の子どもの本」シリーズやマザーグース童話などをよく買い与えてくれた。

未知の世界へと誘ってくれる、美しい装丁の本を手にした時のうれしさは、夜は大事に枕元に置き、小学校へ行くときは、そっとランドセルに忍ばせていったくらいだ。

大人になって、しばらく子どもの本からは遠ざかっていたが、子どもが生まれて、家の近くの図書館の児童室へ足を運ぶようになり、そこでかつて自分も読んだ懐かしい本たちと再会した。

我が子が同じ本を手にして、読んでと持ってくる度、長く読み継がれてきたものは、どの時代にも色褪せない、人を引き付ける大きな力を持っていることを実感した。

そして、子育てが一段落したら、司書の資格を活かして、そうした本を子どもたちに手渡す仕事が出来ないかと考えるようになった。

縁あって、現在、図書館奉仕員として、児童書に関わる仕事をさせていただいている。

日々の業務の中で、子どもたちに本を手渡す機会はたくさんある。そうした時、あまたある本の中から、どれだけ子どもの心を揺さぶるものを提供出来るか、自分の持っている引き出しの中でいつも迷う。

優れた本を手渡すには、それなりにたくさん読み込んで、蓄積していく作業が欠かせない。

豊島区では、毎週配本される新刊児童書を、全館の児童担当者が手分けして丁寧に読み込み、一冊ごと話し合つて、子どもたちに相応しいものを選んでいく。そして、毎年子ども向けの豊島区おすすめの本のしおり(「よんでみよう」)も作成している。

全館児童担当で、このしおりを一年がかりで作成するのは、楽しくも骨の折れる作業だ。それでも頑張るのは、優れた本を子どもたちに手渡して、その魅力を存分に楽しんでもらいたいと願う、皆の真摯な思いがそこにこめられているからだと感じている。

この本カフェ 2

ある本のひと言が、自分の背中を押してくれる。そんな経験をしたことはありませんか。詩人・ホイットマンの「寒さにふるえた者ほど太陽の暖かさを感じ

る」という言葉も、人生の秋冬を経た人にとっては珠玉のメッセージです。今回のこの本カフェでは、何かを始めたくなる本を紹介します。まずは読書から始めてみませんか。春だ、本を読もう!

何かを始めたくなる本

書名:『人間にとって成熟とは何か』 著者:曾野 綾子
発行所:幻冬舎 発行年月:2013年7月

60歳を迎えようとする私に、20余年先を歩いている著者からゲキとエールが飛んで来る。人間の権利は義務と表裏一体である事、肉体は衰えていっても魂は磨いていくべき事。私はまず、世界の中で平和で安全な日本に生まれ、おいしい水が飲める事を感謝したい。そして、国に納めている税金と、受けている保障を自覚したい。東京豊島区に住んで生きている、小さな自分を認識したい。平凡な普通の生活に感謝して、私に出来る事を考えていきたい。著者は、そんなエールを私に送ってくれる。



【佐藤 勝美】



書名:『長すぎる夏休み』 著者:ポリィ・ホーヴァート/訳:目黒 糸
発行所:早川書房 発行年月:2006年4月

主人公のヘンリーは、アフリカに行った両親に代わり二人のおばに世話をしてもらうことに。そのおば達が突然、夏休み前のヘンリーを連れて旅に出る。おば達の思いつくままに先行をまわがるが、沼でのキャンプの時、ヘンリーは三日三晩、ひとり沼の中を流される大冒険をすることになる。大人に振り回されたあけの旅だったが、行く先々で出会う人々に影響を受け、人に対する寛容さと柔軟な考え方を身につける。12歳の旅の経験は、この後のヘンリー成長の節目節目で直面する悩みや苦しみを乗り越える力になるに違いない。気負いのない文章とウィットに富んだ会話は、これから何かスタートをする人にエールをおくってくれる。

【高橋 和子】

書名:『新13歳のハローワーク』 著者:村上龍/絵:はまのゆか
発行所:幻冬舎 発行年月:2010年3月

「もしあの時、別の道を選択していたら・・・」。社会に出るといことは、様々な不条理と対峙することである。迷いもしれば、逃げ出したくなる。それをぎりぎり押し止めていられるのは、仕事に対する使命感か、家族への責任からか。

選択肢が限りなくあった13歳に戻ったら、どんな道を目指しただろう。600を超える職業を乗せた図鑑が夢を広げる。自分の足元を省みる一冊である。
「好きだからこの道を選んだのだ」と背筋を伸ばしてつぶやいてみた。【三瓶 裕雅】



寄稿者はとしまコミュニティ大学(※)の学習者のうち、登録して学ぶマナビト生です。「この本カフェ」では、テーマに合わせて、文学、児童書、評論や科学の分野からお薦めの本を各一冊紹介しています。※豊島区と区内6大学(学習院・女子栄養・大正・帝京平成・東京音楽・立教)との包括協定により、協働して事業展開している人づくり・活動づくり・地域づくりのための総合的な学びの場です。

「国際アート・カルチャー都市」を支える未来遺産『雑司が谷』

豊島区長 高野之夫

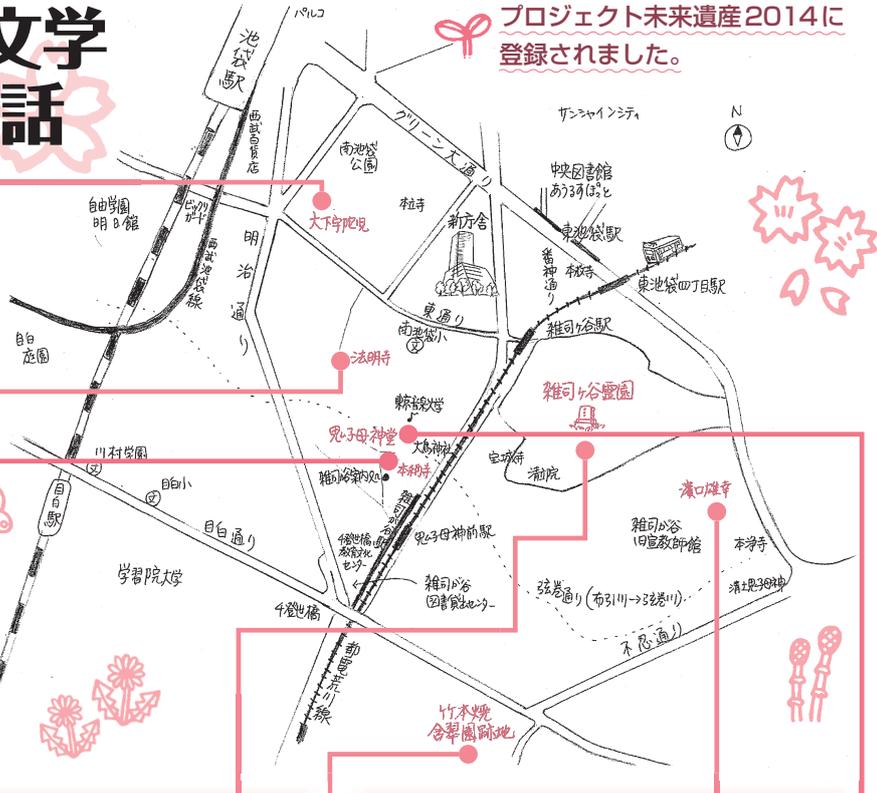
雑司が谷は、江戸の時代から庶民の文化が息づくにぎわいのまちです。鬼子母神の本殿や境内は、遊びに夢中だった子ども頃の生活の息吹をそのまま残し、大銀杏の景観やすすみみずくの郷土玩具は生活の変わらぬ背景となっています。また春には、法明寺の桜が人々に憩を与え、秋のお会式は、地域を一つにする大切な伝統行事になっています。

この雑司が谷の文化を守り、引き継いでいく地域の活動「雑司が谷がやがや」プロジェクト「歴史と文化のまちづくり」が日本ユネスコ協会連盟のプロジェクト未来遺産として登録されました。

豊島区はこれから文化発信拠点都市として、国際アート・カルチャー都市を目指します。伝統に裏打ちされた雑司が谷の地域文化を、国際アート・カルチャー都市の一角を形成し、百年後の豊島区の遺産として残すため、区民のみならずとも守り育てていきたいと思います。

「雑司が谷がやがや」プロジェクト～歴史と文化のまちづくりが公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が推進するプロジェクト未来遺産2014に登録されました。

雑司が谷の文化・文学こぼれ話



今回紹介した「雑司が谷」は現在より広い地域で使われていました。



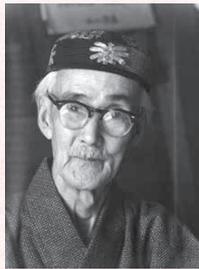
私は昭和19、20年と区役所で隣組の仕事をしており、その関係で探偵小説の大家下野陀児さん、江戸川乱歩さんと池袋駅東西に住まわれていた探偵作家の許へしばしば行くことがありました。大下さんは隣組長で、本名平井太郎の江戸川さんは役員・広報係をされていました。大下さんは平井さんは和風でした。書らしも一人は全く違っていました。大下さんは食糧難のときでも洋風の食事をされていたようです。(武井謙二)

大下野陀児・夏目漱石のイラストは矢島勝昭さんから提供していただきました。

『堀之内詣後篇 雑司ヶ谷記行 下編』
十返舎一九
「どうしがや鬼子母神。威光山法明寺といふ。靈応あらたかにして詣人たえす。左次兵衛広前に法施して。それより支度せんといふ料理茶やに入。……」
(文政2(1819)年、東海道中膝栗毛であなじみの十返舎一九が鬼子母神詣寺を舞台に描いた記述です。左次兵衛といふ主人公が描き出したお参りの様子が描かれています。文中の「料理茶や」は、鬼子母神参道に並んでいます。)



『秋田雨雀日記』尾崎宏次編
1919(大正8)年 一月五日
昨夜、島村先生のマスクの破れた夢をみた。朝起きてまもなく島村先生の墓地へゆこうとすると、芸術座から電報がきた。「マツシシスグコ」。ひじょうなショックを感じて、思わず立ち上がった。自殺！という連想がすく頭を襲った。先日からのいろいろな記憶がいちたにおよびてきた。すべし車をとほして芸術倶楽部へいった。……顔が整っている。無量の感慨に打たれた。通夜、なんともいえない表せぬ感情！
秋田雨雀は、舞白堂(浄土宗)の院長を務め、1905年から1944年まで雑司が谷に住んでいました。墓は本陣にあります。スベシ(風船)で飾島村邸が近所です。日本が新劇の精神を失った二か月前、松井須磨子が後を追ったのです。雨雀は須磨子の一生を執筆しました。(文化デザイン課 学芸員 横山恵美)



舞台芸術学院提供

ここで紹介したお話はほんの一部です。雑司が谷について詳しく知りたい方は「ぶらり雑司が谷文学散歩」(著:豊島区図書館専門研究員 伊藤榮洪)をご覧ください。豊島区立中央図書館で販売中です(定価500円)。



『JUN』夏目漱石
「私は墓地の手前にある苗圃の左側から這入って、両方に楓を植え付けた広い道を奥の方へ進んで行った。するとその端に見える茶店の中から先生らしい人がふいと出て来た。……墓地の区切り目に大きな銀杏が一空洞を隠すように立っていた。その下へ来た時、先生は高い梢を見上げて、もう少しすると、綺麗ですよ。この木がすくつかり黄葉して、ここの地面は金色の落葉で埋まるようになります」と云った。
(1914年4月から5月まで朝日新聞で連載。引用部分は先生と私が雑司ヶ谷公園を歩いている場面です。当該箇所の前には落葉音があつたといひわかれませぬ。)

雑司が谷で生まれた幻の「竹本焼」
「竹本焼」とは明治初年、大正期に旧旗本の竹本家によって作られた陶磁器です。窯は神田川沿いの屋敷(全翠園内にあり)の雑司が谷ケヤキ並木近くに移動し、豊富な湧き水と雑司が谷の土を使って輸出向け陶磁器や盆栽鉢を作りました。特に名陶工といわれた竹本半太は釉薬の改良に取り組み、国内外の博覧会で高い評価を受けました。わずか半世紀で終焉を迎えた竹本焼ですが、雑司が谷が生んだ貴重な文化遺産です。

濱口雄幸さんが当家の祖父惣太郎と、借地契約をされたのは明治44年8月26日のことでした。濱口さんが専売局長になられて4年目の時です。借地は、当時の雑司ヶ谷字亀原20〜21番地、309坪でした。道が狭く来客は車で来られる方が多いので、濱口さんまでの道を拓けたと聞いています。濱口さんが首相になられ、その風貌と剛直清廉な性格から三ライオン宰相と国民に親しまれながら、東京駅で凶弾にたおられたのは、何とも残念なことでした。(安井百子氏)
安井百子さんは、惣太郎さんの孫林一郎さんのお嫁さんで、筆まめだった惣太郎さんの記録をもっとお話いただきました。



第27代 内閣総理大臣

『日和下駄』永井荷風
「東京における夕陽の美は若葉の五月と、晩秋の十月十一月の間を以て第一とする。……山の手のその中でも殊に木立深く鬱蒼とした処といえは、自ら神社仏閣の境内を扱ばなければならぬ。雑司ヶ谷の鬼子母神、高田の馬場の雑木林、目黒の不動、角善の十二社など、かかる処は空を蔽う若葉の間より夕陽を見るにように同時に、また晩秋の黄葉を賞するに適している。」
(1907年(明治40)年「露地」版七巻「マツシシ」東京に関するエッセイがまとめられています。引用部分は「露地」の項です。)

現代読書会へのお誘い

中央図書館では「古典文学読書会」と「現代文学読書会」の2つの講座を開催しています。

現代文学読書会では事前に課題図書を1冊読み、感想を話し合います。本は読みたいけど何を読んだらいいかわからないという方、ひとりで読むのはつまらないという方、少しでも興味のある方はお気軽にご参加ください。

現代文学読書会

開催日時：毎月第二土曜日の午後2時～午後4時(8月と12月を除く)

課題図書：講師から翌月の課題図書の案内をします。

講師：豊島区図書館専門研究員 伊藤榮洪氏

古典文学読書会

開催日時：毎月第一木曜日の午前10時30分～午後0時30分(8月と1月を除く)

課題図書：万葉集巻八

講師：豊島区図書館専門研究員 伊藤榮洪氏

※会場はどちらも中央図書館5階会議室です。変更になる場合があります。

問い合わせ 豊島区立中央図書館企画調整グループ
電話：03-3983-7861



あわさかつまお 泡坂妻夫特集 開催中

直木賞作家泡坂妻夫さん(1933年5月9日～2009年2月3日)は、豊島区に長くお住まいになっていました。

東京・神田で「松葉屋」の屋号を持つ紋章上絵師の家に生まれ、会社勤めを経て家業を継ぎ絵師となりました。また奇術愛好家兼奇術師としても有名でした。

泡坂さんの特集展示は今年で4回目になります。今回は、直筆原稿や思いついた深い品々を展示するとともに泡坂さんの著作を集めて展示しています。

期間 平成27年3月28日～5月21日まで(展示替あり)
展示場 中央図書館5階

図書館イベント情報

◆児童・あかちゃんおはなし会

毎週、本の読み聞かせなどのイベントを行っています。遊びに来てくださいね。

「子ども読書の日」記念スペシャルおはなし会のご案内

4月23日は「子ども読書の日」です。各図書館では、この日を記念して、子どもたちが図書館に親しみ本を読む楽しさにふれられるように、スペシャルおはなし会を行います。詳細は、各図書館へお問い合わせください。

★「子ども読書の日」とは★

「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、「国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため(同法第10条)」に4月23日が子ども読書の日に定められました。

各図書館の連絡先

- 中央図書館 3983-7861
- 駒込図書館 休館中
- 巣鴨図書館 3910-3608
- 上池袋図書館 3940-1779
- 池袋図書館 3985-7981
- 目白図書館 3950-7121
- 千早図書館 3955-8361
- 雑司が谷図書貸出コーナー 3590-1335

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	4月	5月	6月
中央図書館 児童コーナー	日曜日 午後2時	最終日曜日 午前11時	★19日・おはなし会スペシャル「子ども読書の日」記念 午後2時	★3日・おはなしこうさく会 午後2時 ★31日・ボランティアによるおはなし会 (巣鴨親子読書会) 午後2時	★7日・おはなしこうさく会 午後2時 ★28日・ボランティアによるおはなし会 (池袋親子読書会) 午後2時
駒込図書館	大規模改修工事のため、現在休館中です。				
巣鴨図書館	水曜日 午後3時	第3火曜日 午前11時	★8日・ただいま☆スペシャル(すがもん来館記念) 午後3時 ★22日・ほんのじかん「子ども読書の日」スペシャル 午後3時 ★29日・ほんのじかん こうさくかい 午後3時	★20日・ほんのじかん スライド 午後3時	★10日・ほんのじかん えいが 午後3時 ★ぬいぐるみおとまり会 (詳細はお問い合わせ下さい)
上池袋図書館 おはなしのへや (※印は地下ホール)	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時※	★22日・さくらんぼおはなしかい※ 「子ども読書の日」スペシャル 午後3時		★3日・さくらんぼこうさくかい※ 午後3時
池袋図書館 ワークルーム	土曜日 午後2時30分	第1水曜日 午前11時	★25日・おはなしたんぼぼ 「子ども読書の日」スペシャル 午後2時30分 詩人 木坂涼さんをお迎えします。	★23日・たんぼぼえいがかい 午後2時30分 「悟空の交通安全」 ★30日・たんぼぼこうさくかい 午後2時30分	
目白図書館 地下区民集会所	水曜日 午後3時	第1水曜日 午前11時	★22日・おいうえおはなしかい 「子ども読書の日」スペシャル 午後3時	★27日・かきくこうさくかい 午後3時	★24日・めじろシアター 午後3時 「3丁目物語・夏 タマが生まれた時の話」
千早図書館	大規模改修工事のため、現在休館中です。				

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

改修工事に伴う休館のお知らせ

駒込図書館と千早図書館の工事に伴う休館と臨時窓口開設期間をお知らせします。ご利用者の皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

駒込図書館 老朽化に伴う大規模改修工事のため

休館期間
平成27年3月12日(木)～平成28年4月上旬(予定)

千早図書館 耐震補強・トイレ改修等工および自動貸出システム導入のため

休館期間
平成27年4月7日(火)～平成27年8月(予定)

臨時窓口
開設日
平成27年4月8日(水)～平成27年4月20日(月)

開設時間
通常の開館日と同じです。
※11日(土)は午後5時閉館、17日(金)は午後6時閉館

休館期間中は、各図書館の所蔵資料の貸出はできませんのでご注意ください。臨時窓口で行う業務は、予約資料の貸出、貸出資料の返却です。

中央図書館

・開館時間
平日 午前10時～午後10時
土日祝 午前10時～午後6時

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

巣鴨(※)・池袋・目白図書館

・開館時間
平日 午前9時～午後7時
土日祝 午前9時～午後6時

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

○は土日祝の開館時間 ■は休館日 ●は開館時間変更日

上池袋・千早(※)図書館

・開館時間
平日 午前9時～午後7時
土日祝 午前9時～午後6時

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

雑司が谷図書貸出コーナー

・開館時間
平日 午前10時～午後7時
土日祝 午前10時～午後5時

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

編集後記

今回の巻頭言は、駒込のさくらフォトコンテストで審査委員長をつとめていただいているご縁で、著名な写真家・関口照生さんにお願ひしました。桜の季節にぴったりの方にご寄稿いただけたと喜んでおります。(注)